

鉛筆の豆知識

JJ1SXA/池

次は、読売新聞「編集手帳」の記事からの抜粋引用です。

…ハード(硬い)の反対はソフト(柔らかい)。コンタクトレンズならそれで通るけれど、鉛筆の場合、ハードの反対はブラック(黒)と急に色の名前になる◆何日か前の本紙くらし面(東京版)の記事にびっくりした。今時の子供たちが勉強に使う鉛筆は2Bから6Bが主流で、10Bや12Bといった製品もある◆日本産業規格(JIS)はもともと6Bまで。規格外のものは三菱鉛筆やドイツのメーカーが競うように発売したそうで、もちろん子供たちのニーズが底にある◆なぜか。筆圧が落ちたためという体力説がある一方、「濃い鉛筆は線を滑らかに書くことができ、漢字のとめはねが表現しやすいからでは」と見る教育関係者もいる。きれいな字で漢字練習帳を埋める子が増えているのだろうか。スマホやパソコンに慣れる前に、直筆に親しむのはいいことにちがいない…引用終り…

私の小学生時代は、HBが普通で、他の規格の物は使わなかった、勿論、そのHBの鉛筆以外の物は、貧乏家庭では手が出なかったためかも知れない、又Hの方が硬く、数字が大きくなるに従い硬さが増すこと、Bの方が柔らかく、これも数字が大きくなるに従い柔らかく濃くなることぐらいは知っていたが、もう少し詳しい事を調べて見た。

鉛筆及び色鉛筆JIS規格・抜粋

定義

硬度記号6Bから9Hに至るまで硬さが増加し、9Hから6Bまでの線の濃さが増加していくことを表す区分記号。中心硬度はHBである。

種類(鉛筆)

9H、8H、7H、6H、5H、4H、3H、2H、H、F、HB、B、2B、3B、4B、5B、6B

*HはHARD(ハード:かたい)、BはBLACK(ブラック:黒い)の略字で、Hの数字が多いほど薄く硬い芯を示し、反対にBの数字が多いほど濃く柔らかい芯を示し、FはFIRM(ファーム:しっかりした)という意味で、HとHBの中間の濃さと硬さを持った芯のこと。

寸法(鉛筆及び色鉛筆)

(a) 消しゴム及び止め金具、装飾品などの付属品を除いた鉛筆及び色鉛筆の長さは、172mm以上とする。ただし、手帳用鉛筆は、付属品を除いた長さが70mm以上とし、短寸の色鉛筆は85mm以上、172mm未満とする。

(b) 鉛筆及び色鉛筆の軸径は、8.0mm以下とする。ただし、紙巻き軸の色鉛筆は除く。

*これに近い長さを最初に決めた人は、ドイツ人のルター・ファーマーとされています。1840年頃に「7インチ(17.78センチ)」にしようとして提案しています。

知らなかったが、細かい定めがあるのだ、4B位までは実物に触ったことはあるが、10Bや12Bの感触はどうなんだろう、また、鉛筆に六角形が多いのは、転がらないため、持ちやすいためで、握った場合、必ず3点(親指、人差し指、中指)で押さえるので3の倍数である必要があるからですとのこと。(色鉛筆は丸軸)